

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く(57)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(57)—

#### 1. 始めに

前報(56)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

ドイツグラモフォン 419059-1

モーツアルト ピアノ協奏曲 27 番変ロ長調

2 台のピアノのための協奏曲変ホ長調

エミール・ギレリス (ピアノ)

エレーナ・ギレリス (ピアノ)

カール・ベーム指揮ウイーンフィル

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ピアノ協奏曲 27 番はエミール・ギレリスの演奏、2 台のピアノのための協奏曲はエミール・ギレリスとエレーナ・ギレリスの親子の演奏です。

エミール・ギレリスは、これまでの印象は力強く豪快な演奏ということでしたが、この盤では端正でありながら情緒的な面も見せています。

2 台のピアノのための協奏曲におけるエレーナ・ギレリスとのデュオも息があっており、華やかで快活なこの曲に似あった演奏です。エレーナ・ギレリスもエミー

ル・ギレリスに比べれば柔らかいタッチでついていっています。ベーム指揮ウイーンフィルは、ウイーンフィルらしく優雅なモーツアルトです。

### 3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、ギレリス親子のピアノとベーム指揮ウイーンフィルの演奏の特徴が的確に捉えられています。

以上